

調査実施要領にありますように、本調査結果は、学力や学習状況の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面ではありますが、学校として以下の結果について真摯に受け止め、子どもたちの学力並びに学習意欲の向上に努めてまいります。
保護者のみなさんのご理解・ご協力をよろしくお願いいたします。

【学力状況調査】 <学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

【国語】		【算数】	
全体的な状況 全体的な正答率は、全国平均や大阪府平均よりも高く、基礎的な知識の定着が見られました。 取材をしたリインタビューをしたりしたものをまとめるような問題が出題され、子どもたちは取材した内容をしっかり読み解き、意見や考えをまとめることができていました。		全体的な状況 全体的な正答率は、全国平均や大阪府平均よりも高く、基礎的な知識の定着が見られました。 日常の中にある算数に着目した問題(いすを積み重ねたときの高さ、辞書を本棚にならべる等)が出題され、子どもたちはこれまで学習した知識をもとに、解答をすることができていました。	
成果 各教科の授業でペア、グループ、全員での話し合い活動を積極的に取り入れています。そのため、それらの学習の中で、子どもたちは自分の意見を相手に伝える、相手の意図をくみ取るという経験を多く重ねることができています。そのため、子どもたちは効果的な話し方・聞き方についてよく理解し、解答することができていたと考えられます。		成果 数と計算の領域に関する問題が特によくできていました。子どもたちの日々学習に向かう姿勢と、4・5年生時に行った少人数によるきめ細やかな指導が、基礎学力、計算力向上につながったのではないかと考えています。算数のつまづきが生じやすい4・5年生時におけるきめ細やかな指導をこれからも継続していきたいと考えています。	
課題 「調査さかん(期間)」を漢字にする問題で課題が見られました。また、たくさんの取材メモやインタビューを読み取ってから解く問題が多くあり、時間が足りていない傾向が見られました。問題文をしっかりと読むことが必要なため、読むことに疲れてしまって集中力が途切れてしまった子どもたちもいたようです。		課題 『なぜ』『どうして』と自分の考えを記述する問題に課題が見られました。答えを導き出すことはできていましたが、その理由となる条件が複数のある場合に、その複数の理由をすべて記述しきることができていなかった児童が多かったです。(三角形の面積が等しい理由を、高さのみを書いて、底辺については触れていない等)	
課題解決に向けた取組み 子どもたちの語彙力を向上させるためには、日頃からたくさんの言葉・漢字にふれる学習活動が大切です。国語科の学習はもちろんのこと、他の教科においても、さまざまな言い回しの仕方や言語に関する知識、漢字の習得などを大切にしながら、学習を進めていきます。また、子どもたちが意欲的に読書に取り組むことができるよう、読み聞かせや図書室のイベントなどを積極的に行っていきます。		課題解決に向けた取組み 解決方法を自分でしっかり整理し、アウトプットすることは、これからさまざまな課題に向き合うことになる子どもたちにとってとても大切なことだと考えています。そのために大切なことは、人に伝えることです。学校は互いに協力し合いながら、集団で生活をしている場所です。互いに自分たちの考えを共有しあいながら、学習を進めていくことをこれからも大切に授業づくりを行っていきます。	

【学習状況調査】

状況が良好な主な項目(肯定的な意見の割合)	本校	府	全国	課題を残した主な項目(肯定的な意見の割合)	本校	府	全国
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。(起きていますか。)	92.4(98.1)	80.4(89.5)	81.0(90.5)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(予習や復習を含む)	58.5	62.7	70.7
学校に行くのは楽しいと思いますか。	90.5	83.8	85.3	読書は好きですか。	67.9	70.8	71.8
人が困っているときは、進んで助けていますか。	100	90.5	91.6	学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間読書を読みますか。(30分未満)	75.6	67.0	62.6
全体的な状況 全体的に前向きなアンケートの回答が多く、日々の子どものがんばりがよくあらわれていました。上記の項目以外にも『5年生までの学習で課題解決に向けて自分で考え自分から取り組んでいた様子』や『地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う子どもたちが多い』なども肯定的な意見がとても高い数値となっていました。				課題 読書について、上記の項目以外にも『図書室・図書館へいく回数』や『新聞を読む割合』なども全国平均より低く、活字に触れる機会が少ない児童が多い傾向が見られました。また、塾や家庭教師などで学習している児童は平均並みにいるものの、学校以外の場所で自ら計画立てて学習をする習慣がついている児童が少なかったです。			
成果 6年生の子どもたちは、学級・学年活動や縦割り活動、クラブ、委員会など、学校生活におけるさまざまな場面で、日頃から自分たちができることを探し、考え、行動しています。そんな普段からのがんばりが今回の結果にはよく表れていました。上級生のがんばる姿は、下級生からの信頼へとつながり、そして、それらはまた上級生の自己有用感の向上へとつながります。このサイクルがうまく伏山台小学校でつながっています。縦割りなどの活動をこれからも大切にし、子どもたち同士のがんばれるサイクルがよりつながる取組みをこれからも行っていきたいと思います。				課題解決に向けた取組み 図書委員会を中心に、子どもたちが読書に興味を持つことができるようにさまざまな取組みを行っています。今後も、子どもたちの読書習慣をつけるための取組みをしっかりと行っていきたくと思っています。また、伏山台小学校では自主学習週間を設けており、子どもたちの自主学習を後押しする取組みもしています。がんばっているノートなどのコピーを下足室に掲示し、意欲向上を図っています。行事予定などでもお知らせしていますので、ご家庭でもお声かけいただけると大変ありがたく思います。			

○保護者のみなさんへ(全体を通じて)

全国学力・学習状況調査は、普通学校で行っている単元の理解度確認のためのテストとは異なり、これからの大きな変動の時代を生きていく子どもたちが、将来必要になるであろう力がどれくらい身についているのか、また、どのような力を身につけた子どもたちに育ってほしいのかというメッセージが込められたテストとなっています。学校では、そういったメッセージや結果を真摯に受け止め、子どもたちが社会に出て活躍していくことができる人として、大きく成長していってくれるように支援していきたくと考えています。

今年は、国語・算数の2科目が行われました。国語では、『取材やインタビューをもとに、自分の考えや思いを相手に伝えたり、まとめたりする問題』、算数では、『生活の中にある物事を数理的にとらえて、算数の問題として課題解決を図る問題』が出題されていました。子どもたちは、普段の生活の中で課題を見つけ、それらを解決していくためにどうすればよいのか、論理的に思考し、その考えを言語化して相手に伝え、協力して取り組んでいくことが大切になってきます。発見⇒思考⇒協働へのつながりが、これからの子どもたちにはとても大切です。伏山台小学校では、課題解決力を『読み取る力』『考える力』『表現する力』と考え、国語科を中心に課題解決力を高める授業づくりを研究しています。しかし、これらの力は学習の中だけでつく力ではありません。普段の生活の中でも、疑問を持ち、それを共有し、考える。こういった思考が大切になってきます。その時、子どもたちの大きな力になるのは、いつもそばにおられる保護者の皆様です。学校とともに子どもたちのこれからの未来のために、力をお貸しいただけるとありがたく思います。保護者のみなさまも、ぜひ一度、今回の調査内容についてご覧いただけると幸いです。これからもどうぞよろしくお願いいたします。